

2002年度デジタルポートフォリオ・プロジェクト報告書

第2部 調査編

第5章

デジタルポートフォリオ学習・評価活動における保護者向け調査報告書

I はじめに

デジタルポートフォリオ・プロジェクト（以下DPP）は、デジタルポートフォリオを授業と授業評価に活用するプロジェクトである。そして、デジタルポートフォリオを授業と授業評価に活用することの効果をあきらかにすることを目的とし、デジタルポートフォリオのより一層の有効的な活用を目指すプロジェクトである。プロジェクトの研究実践に用いる題材は、コンピュータを使用する図画工作科題材「○○の気持ち」である。この題材において、1) DPPのWeb Siteにプロジェクトメンバーが作成・更新するデジタルポートフォリオ、2) 学校サーバーにデジタルワークカードを保存・集積するデジタルポートフォリオを活用する。この題材の授業実践後、「DPPのWeb Siteを活用した授業」「デジタルワークカードを使用した授業」「DPPのWeb Siteによる授業公開」の実態を調査する。調査は児童と教師と保護者を対象にアンケートによって実施する。

本報告書は、DPPのWeb Siteの「こどもの部屋」「先生の部屋」「みんなの作品発表会」について、保護者が感じたことをアンケート調査し、その結果を報告するものである。

II 研究の方法

1. 目的

保護者が「こどもの部屋」「先生の部屋」「みんなの作品発表会」についてどのような考えを持っているのかを探る。

2. 方法

(1) 調査対象教師	石川県金沢市立鞍月小学校	5年生保護者
	熊本大学教育学部附属小学校	5年生保護者
	和歌山県かつらぎ町立大谷小学校	5年生保護者
	千葉県柏市立旭東小学校	5年生保護者
	大阪教育大学教育学部附属平野小学校	5年生保護者
	石川県野々市町立御園小学校	5年生保護者
	石川県金沢市立南小立野小学校	5年生保護者
		合計 206名

(2) 調査期日

- ・ Webからのオンラインアンケート：2003年2月17日～
- ・ アンケート用紙によるアンケート：2003年3月3日～同年3月10日

(3) 調査項目

子どもたちの作品を掲載した「みんなの作品発表会」や、ホームページの「こどもの部屋」や「先生の部屋」、デジタルポートフォリオ・プロジェクトの活動などについて、保護者の方々のご意見ご感想をうかがいたいと思います。いただいたご意見を今後の研究に活用させていただきます。

また、いただいたご意見は無記名にてホームページ等で公開させていただきますが、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。

年度末のご多用の折とは存じますが、以上の主旨をご理解の上、アンケートへのご協力をよろしくお願い申し上げます。

●このホームページをみたことがありますか。

1.見たことがある 2.見たことがない

●ご意見ご感想をお書き下さい。

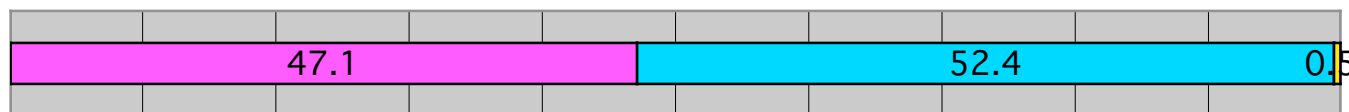
(4) 手続き

web上にアンケート項目を掲載し、アンケートを実施した。同時に、質問紙を家庭に配付しアンケート調査を実施した。

Ⅲ 結果と考察

1、このホームページをみたことがありますか。

時間	人	%
見たことがある	97	47.1
見たことがない	108	52.4
未回答	1	0.5
合計	206	100.0



■見たことがある ■見たことがない ■未回答

2、ご意見ご感想をお書き下さい。

106名（回答者の51%）の保護者より、意見・感想がよせられた。肯定的意見、否定的意見に分けて主な意見を列記し、それぞれ考察する。

【肯定的意見】

- インターネットは見たい時に見ただけ見られるので、便利ですね。家で授業参観しているようです。
- 東京に単身中の父親はみました。とても良かったと話していました。
- 先生の作品は、くわしい説明がついていて、よくわかって楽しかった。
- 子供から図工の時間にパソコンを使って作品を制作していると聞いて、いつ見れるのかと楽しみにしていました。写真とタイトルが並んでいるだけでも芸術的ですね。その絵が動くと「子供ってこんなことを考えているのかな」と大人では見おとしてしまうような子供の視点に感心しながら見ていました。
- 子ども達の作品発表の場で、他の学校の子どもの作品が鑑賞できたりコメントを書き込めたりできるのが、子どもにとっても大人にとっても広がりがあって、楽しいと思う。授業の様子が紹介されているのをみて、「こんなふうに進みながら、作品ができるんだとわかり、うれしかった。（いつもは、持ち帰った作品をみるだけなので、どうしてそんな作品になったのか不思議に思うことがあった）先生のページを見て、ひとり一人についてたくさんの観点から評価させていることを知り、改めて評価のたいへんさと作品の制作過程の大切さを感じた。
- 「〇〇の気持ち」という題のページを拝見しました。他校との生徒の作品もあり、自分の子供の作品、自分の学校の・・・と自ら範囲をせまく見てしまう大人にはとても新鮮でした。ホームページへのアクセスに最初手まどっていましたが、子供の助言をかりてとても楽しい時間をなりました。
- とてもすばらしい「みんなの作品発表会」ですね。子供も自宅のパソコンで他のお子さんの作品を見て楽しんでいるようです。自分の作品へのいろいろなコメントを他の学校のお子さんからいただけるのもインターネットならではのようです。機会があれば続けて欲しい取り組みです。
- ついに図工もデジタルの時代なのかと、つくづく考えさせられました。主人が四苦八苦しながら一生懸命おぼえている画像処理を、子どもたちが楽しそうにコンピュータに向かって描いている姿が目にかんできました。作品を家で家族でみんなでワイワイと言いながらみられるということは、とても楽しいことです。先生方もたいへんとは思いますが、ぜひ続けて下さい！お願いいたします。
- とても楽しく拝見させて頂きました。子供も自分の作品がインターネットに載っているのがうれしくてたまらないようで恥ずかしながらも自慢そうにパソコンを操作して説明してくれました。音もあればもっと良いですね・・・。ハイテクな現代での新しい家族でのコミュニケーションになりました。ありがとうございました。
- インターネット上で子ども自身の作品が公開されることで、子どもたちの励みになると思いますし、機会があれば親にだけではなく、おじいちゃんおばあちゃんに見てもらえたらと思います。
- いつもは見れない子供の様子や学習のねらいは親としてとても知りたい事なので、公開を続けてほしいです。

<考察>

肯定的意見の中で一番多かったコメントは、[「〇〇の気持ち」みんなの作品発表会]に関するものであった。子どもたちの作品の面白さ・楽しさ・ユニークさについて述べられていた。保護者のDPPページを見る動機が、やはり自分の子どもの作品を見ることにまずあったことがわかる。

次に多かったコメントは、子どもたちのコンピュータ・スキルに関するものであった。自分の子どもの

コンピュータ・スキル（デジタルカメラの撮影技術、画像処理、GIFアニメ作成技術、日本語入力、インターネット検索など）が高まったことを親のそのスキルと比べ高く評価するとともに、学校でのコンピュータ・スキルの育成を今後も期待するコメントが目立った。

その次に多かったコメントは「子どもの部屋」と「先生の部屋」による授業公開に関するものであった。自分の子どもの作品が完成に至るまでの「教師の指導や評価の実際」が、資料とビデオなどによって、よく理解することができたことを高く評価するものであった。こうした取り組みを今後も継続することを希望する意見が目立った。

【否定的意見】

- 家にパソコンがない人はどうするのでしょうか？
- パソコンが家にありませんので、すいませんが見ることができません。残念です。
- 現在、家のパソコンではインターネットにつながらない状態になっておりまして、残念ながら拝見することができませんでした。また機会があれば、ぜひ拝見させていただきたいと思います。

- コメントを書こうと思ったのですが画面を開くことができませんでした。
- まだ機械の使い方に不慣れな為、そこまで入ることができなく残念でした。「〇〇の気持ちの作品」に所どころでも行けませんでした。
- ワークシートのところで、真っ黒で見えないのは、パソコンのせいでしょうか？
- みんなの作品発表会のページへ行くまで大変だった。ちょっと見にくいかな？（文字が多すぎて、ページを探すのが苦労する。私だけかも・・・）作品は楽しく見せていただきました。
- 「子供達の活動の様子」も興味深かったが、もう少し説明があれば良いと思った。

- 新しい表現方法のひとつとして面白く見せていただきました。しかし、「図工」というと少し違和感があります。考え方が少し古いようですね。というのも、「手で生み出す」ことに意義を感じるからです。パソコンを使うと簡単にできすぎるような気がします。こういう欠点も考え合わせて今後の授業をすすめていただければと思っています。
- いきいきとしていて楽しそうだった。作品に勢いがありました。ただ、テーマが決まっていたためか、同じような作品が多く、その点が残念でした。

<考察>

否定的意見の数は、肯定的意見の数に比べ非常に少ない。否定的意見は、1) ITを使える人と使えない人の溝（デジタルデバイド）に関するコメント、2) 題材に関するコメントに分類できる。

コンピュータを設置していない家庭への対応が急務である。また、①リンクボタンをページの装飾やマークとして捉えた保護者のために、わかりやすいリンクボタンに改良すること、②「授業の様子」など画像への補足説明文が求められている。

実践題材に対する意見を重要な指摘として認識し、コンピュータとその周辺機器を使用する図画工作科題材の在り方、情報教育と図画工作科教育の関連を考察する上での大切な観点にしたいと考える。